

2024（令和6）年度 卒業生アンケート調査結果概要

1. 調査概要

（1）目的

在学中の学修・生活状況、各種支援に対する満足度、大学教育の有用性、現在の状況等を把握し、大学・学科におけるカリキュラム検討、大学・学科が提供する支援などの改善の参考とする。

（2）調査対象

学部卒業生

（3）調査方法

Microsoft Forms による調査・回収、内部質保証推進委員会卒業生調査担当グループで分析

（4）調査時期

2024年6月17日～11月29日

2. 調査結果

<結果概要>

◆ 回答者属性

- 卒業年：2019年・2023年卒（23.1%）
2022年（19.2%）
2020年・2021年（11.5%）
- 出身学科：看護学科（65.4%）・栄養学科（34.6%）

<自身の現状> . . . 道内定着・専門職としての就職傾向・常勤100%と安定した働き方

（1）卒業直後の就職先・職種

- ① 就職先：道内84.6%
・札幌市内 61.5% ・道内 23.1% ・道外 15.4%
- ② 職種：専門職92.4%
・看護師 57.7% ・栄養士・管理栄養士 27% ・保健師 7.7%
- ③ 雇用形態
・常勤 100%

（2）専門職としてのキャリアアップ

・考えている 42.3% ・考えていない 57.7% ・既に行っている 0%

<大学の教育> . . . 高い割合の肯定的評価。特に他者連携・人との関係性構築が高く、教育の成果

（1）ディプロマポリシーの修得度：他者との連携・協働する能力がトップ（100%）

- ① 自らを律し、主体的に行動する能力
非常に身についている34%・ある程度身についている58%＝ 92%
- ② 生命を大切にし、人々の権利を尊重する態度
非常に身についている31%・ある程度身についている61%＝ 92%
- ③ 目標を達成するために他者と連携・協働する能力
非常に身についている35%・ある程度身についている65%＝ 100%
- ④ 人々との関係性を構築する能力
非常に身についている46%・ある程度身についている50%＝ 96%
- ⑤ 問題・課題を発見し、解決する能力
非常に身についている23%・ある程度身についている73%＝ 96%
- ⑥ 修得した知識・技術を活用し、実践する能力
非常に身についている31%・ある程度身についている65%＝ 96%
- ⑦ 看護or 栄養管理の在り方を探求し、保健・医療・福祉の発展に寄与する能力
非常に身についている23%・ある程度身についている58%＝ 81%

(2) カリキュラムの有用性：「専門科目」の有用性が最も高く96%

- ① 基礎教育科目（理科、英語、生物学、化学、表現技法など）
非常に役に立っている15%・ある程度役に立っている62%= 77%
- ② 専門基礎科目（携帯機能学、生命倫理など）
非常に役に立っている19%・ある程度役に立っている69%= 88%
- ③ 専門科目（看：基礎看護学・成人看護学など、栄：基礎栄養学・応用栄養学など）
非常に役に立っている27%・ある程度役に立っている69%= 96%

＜大学生活＞・・・施設設備が学び環境に好影響・学生間のコミュニケーション促す工夫が必要

(1) 良かった点：施設設備がトップ

施設設備 18%・教職員 18%・図書館 16%

(2) 改善点：学生間の交流機会不足

学生間の交流 31%・サークル活動 23%・教職員 11%

＜大学とのつながり＞ ホームカミングデイなど卒業後の交流の場を提供する方策を検討

○ 交流相手：

在学当時の友人 57%・教職員 35%・在学生 5%

＜総合評価＞・・・カリキュラム・教育内容に満足、学生交流・教職員対応など「人的環境」で課題

(1) カリキュラムに満足している

非常にそう思う23%・ある程度そう思う69% = 92%

(2) 教育内容に満足している

非常にそう思う19%・ある程度そう思う66% = 85%

(3) 教育は卒業後の仕事や生活に役立っている

非常にそう思う35%・ある程度そう思う54% = 89%

(4) 本学への受験を知人や将来の自分の子どもに薦めたい

非常にそう思う19%・ある程度そう思う58% = 77% あまりそう思わない23%